



大野 則男 議員

財政健全化とプライマリーバランス

問 財政健全化は一番の課題だ。子供たちにツケを回さない計画づくりに着手すべきだ。予算の組み方は。

企画部長 平成27年度は26年度と比べ、全体で35億3千万円削減で28年度以降は普通交付税の減額を見据え、市民ニーズを的確に把握し、効率的な財政運営を進めるため、事務事業の見直しや公共施設の見直しによる経費削減を図ることが必要だ。

問 市として「プライマリーバランス」の目標数字を定め、交付税に頼らない財政健全化を示し、少しでも前に進む努力をすべきでは。

企画部長 プライマリーバランスとは、公債費を除く歳出を借金に頼らず、その年の税収等で賄えているかを判断する財政指標であり、プライマリーバランスが赤字の場合、借金の残高も増える。本市は、24・25年度と黒字だが、毎年変動が大きく、自主財源の目標値は定められない。

駅を核とするまちづくり

問 永和駅北の整備計画は、津島市の動向を含め、愛西市としてどう考えているか。

経済建設部長 津島市からは、勉強会も含んだ中で、近隣の市町が情報を共有した中で、協働して進められればと、話をいただいた。

市長 鉄道事業者、利用者、周辺の住民、地権者、関係自治体の理解、協力が不可欠だ。また、事業目的、効果など課題もあるので動向を注視して見守り、議員の意見は伝える。

問 佐屋駅整備の安全対策に、時間はない。事故が発生してはおそい。考えは。

経済建設部長 名鉄には、図面を渡し、協議しており、将来的にはロータリーを利用者にわかりやすくカラー塗装する計画を交渉中だ。



真野 和久 議員

防災行政無線の改善を

問 4月から市全域で防災行政無線の運用が始まったが、屋外スピーカーの音が聞こえないという声が寄せられている。市は、聞こえる範囲の把握を行っているのか。また、範囲の調査の考えは。

総務部長 避難勧告などの緊急情報は最大音量で放送するので、格段に聞こえる範囲が広がる。現在の屋外スピーカーの設置場所は、住宅街を中心に机上で計算しており、ほぼ市内全域を網羅している。今のところ音量調査を行う予定はない。

問 総合防災訓練などで、最大音量まではいかなくても、一定音量を上げて訓練時に音声を流すことは可能か。

総務部長 訓練に使用することは、防災に関することなので、運用上可能だ。

問 町内行事や市政情報が流れないので不安な市民もいる。放送可能な内容の枠を広げてはどうか。

総務部長 市民の生活スタイルの変化や価値観